

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

99.12.22 No. 5066

55才以降の減額制度の撤廃を

いすみ鉄道支部第13回定期大会(12/15)

いすみ鉄道支部は、十二月一日、大多喜町・あすなるにおいて、第一三回定期大会を開催し、勝浦・御宿両選挙闘争を中深めた。

いすみ支部は、十二月一日、大多喜町・あすなるにおいて、第一三回定期大会を終了し、その後、懇親会にうつり親睦を深めた。

戦争への道を阻止しよう!

田中支部長あいさつ

大会は、長谷川副支部長の開会ですすめられ、冒頭、田中支部長から「不況を利用して新ガイドラインが強行成立させられて戦争に進もうとしている。意見を出して大会を成功させよう」とあいさつが行われた。

本部を代表して布施副委員長から、五五才以降の労働条件の変更の問題及び会館建設を中心にしてあいさつをうけ、続いて来賓として水野勝浦市議は「倒産、リストラという厳しい状況だが、労働者を支えるような活動を行っていききたい。そのため、外房地域の議員とのネットワークをつくっていききたい」、中村御宿町議は「新ガイドラインが通る中で、労使協調では聞えないことを訴えていききたい」とそれぞれあいさつを行った。

経過報告、会計報告、九九年活動方針案、予算案が提起され、質疑の後、九九年の新役員が選出され、田中支部長の団結ガンバローで大会を終了し、その後、懇親会にうつり親睦を深めた。

九九年度新役員体制

役職	氏名
支部長	田中廣胖
副支部長	山口六衛
書記長	峰篤光男
会計監査	長谷川勇



京葉支部 石川新支部長を選出

京葉支部第一二回定期大会が一月五日、千葉市・蘇我勤労市民センターにおいて開催され、動労千葉二〇年の全成果をステップにして、「ガイドライン体制下の労働運動」への飛躍を目指す闘いを、職場生産点から全組合員の総力を結集して創りあげていくことを確認した。

大会は議長に石井委員を選出したあと、冒頭あいさつに起った中村支部長は、「産業競争力再生法という国家的大リストラ攻撃のなかで労働運動の質が問われている。今年は結成二〇周年という節目の年だった。三月のレセプションから春闘一波、二波一強制配転粉砕の闘い、京葉支部としては三〇五二Mの誉田駅での副本線着発をめぐる安全確認闘争など、運転保安確立の闘いの先頭に起って闘ってきた。また、統一地方選挙での組織内三候補の勝利、全国物販闘争への取り組み、一一・八日比谷野音での労働者集会で示された新しい労働運動の潮流の台頭など、全組合員にとっても意義のある年であったと考える。われわれは、貨物の仲間への超低額格差回答を許すことなく、分割・民営化体制粉砕の闘いをさらに押し進めよう。組織拡大を実現し、来年にも着工される新会館建設という新しい時代に向かって進撃しよう」と力強く訴えた。

起されたあと、質疑を行い、新たに石川支部長を選出し、闘いの拠点として、京葉支部を全員で発展させていくことが確認された。

※質疑で出された主な内容
指導添乗について、六ヵ月乗り回している線区、それ未満でもということがあったが、東金線での分割・併合において、作業それ自体をわからないものが添乗してくる。指導添乗ではなくて警戒添乗というのが現実だ。

五五才以上のシニア制度というものが導入されると聞いたがどういふものなのか?

続いて、来賓として来られた本部・君塚副委員長、田中書記長より、動労千葉の二〇〇〇年の課題が提起され、経過報告、会計報告、運動方針、予算が提

支部長	副支部長	書記長	執行委員	特別執行委員	会計監査委員
石川 義雄	中村 正巳	木田 隆	渡辺 照信	関 寿	渡辺 佳則
			佐藤 勝己	野村 康哉	石井 幸一
			鈴木 文男	青山 浩	外山 義章
			斉藤 市郎	吉清 伸弘	
			青山 浩		
			山口 利夫		